

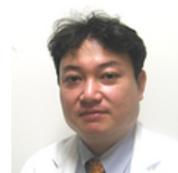
くまもとメディカルネットワークの利活用と今後

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

M3を閲覧の先生方、この度は熊本大学病院の「くまもとメディカルネットワークの利活用と今後」のページを閲覧いただき、誠にありがとうございます。

これまで、熊本大学病院ではくまもとメディカルネットワーク(KMN)の利用の仕方、KMNを活用した診療、各科の取り組みを、3回にわたって紹介してまいりました。

今回は、整形外科と消化器内科でのKMN活用法や今後の展望について紹介いたします。KMNを病病・病診連携のツールとして活用するだけでなく、診療の活性化や円滑化を充実させ、将来の診療レベルの向上など患者様や地域医療にとっても有用なものへと発展させ、育てていきたいと考えています。



宮本 健史
副病院長
整形外科
診療科長

整形外科におけるKMNの利活用

熊本大学病院は県内唯一の特定機能病院であり、整形外科も地域医療の一翼を担うべく、病病連携・病診連携を積極的に進めております。

また熊本県と当院が連携して推進しております地域医療連携ネットワークにも積極的に参加しています。

整形外科では、こうした病病連携・病診連携・地域医療連携とKMNは非常に相性が良いものと考えております。

双方向の診療情報共有による病病・病診連携

熊本大学病院は紹介病院という病院の特性上、地域医療を担う先生方から患者様をご紹介いただきて診療を実施させていただいております。

その際、診療情報提供書等の文書やX線やMRI等の画像データはKMNを通して交換が可能になっており、ペーパーレス化が可能で、CD-ROM等を患者様に持参いただく必要もなく、患者様の来院時の持参忘れや取り込みの時間的なロスもありません。

また、逆に、当院からの診療情報もKMNを通じて情報をお送りすることで、双方向性の情報交換が可能になります。熊本大学病院整形外科では県内の広域からご紹介いただく患者様の診療に対応させていただいておりますが、距離的に遠方の方や術後のリハビリテーションの方などは、地域の施設でフォローをお願いすることが多くなっております。

この際の文書交換もKMNを通じて可能となっております。

当院で実施しました画像や血液などの検査結果や処方内容等をご確認いただけますので、結果をリアルタイムにフォローできるだけでなく、検査や処方の重複も防ぐことができます。

整形外科ではKMNを通じた情報交換を積極的に行うことで、円滑な診療の推進につとめていきたいと考えています。

整形外科におけるKMN利活用の今後の展望

整形外科は診療科の特性上、さまざまな領域を専門的に診療する複数のグループの集合体として1つの科として機能しています。

当院で専門的な診療として実施しているのは、大きく分けると下肢(股関節、膝関節、足)、上肢(肩、肘、手)、脊椎・脊髄、骨軟部腫瘍、外傷、また関節リウマチなどの炎症性疾患や骨粗鬆症、リハビリテーション、また膝などの関節痛やスポーツ障害の患者様への再生医療なども実施しております。

これだけの領域を1つの施設でカバーしているのは熊本大学病院しかありませんので、必然的に多くの他の病院や診療所の先生方との連携が必要になります。

KMNの今後の有効な活用法として、例えば入院時にかかりつけの先生に出していただいているお薬を間違いなく継続するための入院時の前方支援や、退院時の診療情報の提供にもKMNを活用することで、入退院を円滑に行えるようにしたいと考えています。

また、KMNを通じた文書交換が増えてきますと、多くの診療情報が集積することになります。

我々はこれらの連携の中で、KMNを単に情報交換ツールとして利用するだけでなく、様々な臨床情報を集積し、さらなる診療の向上のための取り組みに生かしていきたいと考えております。このために、将来的にはAIを活用した取り組みなども検討しているところです。

消化器内科におけるKMNの利活用



熊本大学 大学院生命科学研究部

消化器内科学 助教

立山 雅邦 (たてやま まさくに)

学会専門医・認定医

総合内科専門医・日本消化器病学会専門医・

日本消化器内視鏡学会専門医・日本肝臓学会専門医

当院は熊本県唯一の大学病院として、熊本県の第3次の医療機関としての役割を担っており、複数の地域の拠点病院や基幹病院からご紹介を受けています。しかし、高齢者やお住いの地域が遠方の患者様など当院への交通手段が限られている方も多く、何回も受診いただくことが難しい場合も見受けられます。

KMNの利用は、事前の診療情報の把握とそれに基づいたロードマップの作成を可能にします。受診前にあらかじめ検査の段取りができ、検査のための往來を最小限にできるだけでなく、DPCの観点からも有用であると思われます。そこで、当科で経験したKMNが有用であったと考えられる事例に関してご紹介したいと思います。

【症例】60歳台女性:超音波画像の事前共有により患者負担を最小限に

もともと地方の基幹病院で経過観察中のC型慢性肝炎でHCV駆除後の症例で経過観察を行っていましたが、定期検査の腹部超音波検査で肝右葉に20mm代の肝癌を疑う所見を認めました。

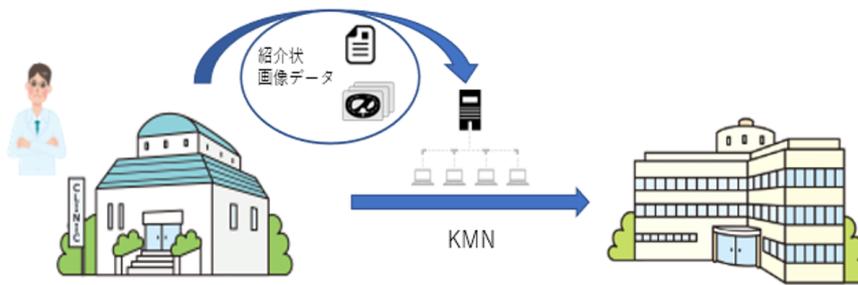
もともと月1回の外勤時の検査で発見されたので、次回の精査になると、時間が空くことになり、大学病院での精査が望ましいと考えられます。

以前は大学の受診日を決めてそこに合わせて、紹介状を作成と画像をCD-ROMに取り込み、受診時に持参していただいたのですが、大学受診時に初めて所見を把握することになっていました。

FAXで送ることもできますが、レポート用紙は入手できますが、実際の画像は閲覧できず、大まかな情報しか得られません。

しかしKMNでは紹介状を作成し、紹介元の病院でKMNに紹介状、画像データをKMNに取り込んでいただくことで、事前に確認することができ、当日の検査計画や結果の説明もスムーズに行うことが可能でありました。

KMNを活用した診療情報の共有イメージ



KMN利用前	KMN利用後
<ul style="list-style-type: none"> 紹介状、画像をCD-ROMで持参またはFAX送信 CD-ROMは作成が煩雑だけでなく、所見の把握は受診時となる（郵送でも数日かかる） FAXは画像所見をリアルデータで確認できない 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介状はKMNへ紹介状、画像を取り込むだけで診療情報の共有は完了 患者受診前に詳細な診療情報の確認が可能 それにより、事前に検査・治療計画を立てることが可能

消化器内科における今後のKMNの展望

慢性疾患の管理では、かかりつけ医と当院での管理が望ましいと考えています。

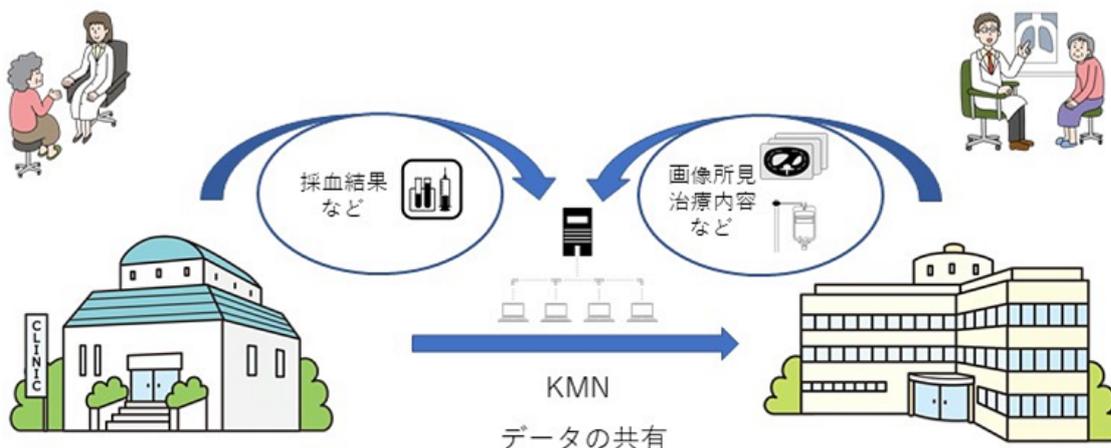
当科の疾患としてはウイルス性肝炎、非アルコール性脂肪肝疾患などが対象になります。進行した慢性肝疾患では肝癌のriskが高く肝癌のサーベイランスが特に重要ですが、腹部超音波検査では不十分なこともしばしばです。その場合は造影剤を用いたCT検査やMRI検査が重要となります。しかしそれらの医療機器は高額であり、かかりつけ医の役割を多く担うクリニックなどで整備することは困難です。

そこで、普段の管理はかかりつけ医で、CTやMRIなどの検査は当院で行うといった役割分担が重要となりますが、KMNで提携することで、そのデータを共有することができます。

またかかりつけ医の先生方から受診の必要性について電話でご相談いただいた場合にも、事前に情報が入手できますので、その状況がわかりやすくなり、より適切な判断を行うのに有用であると考えます。

また昨今では抗ウイルス治療が進歩し、HCVについてはウイルス駆除が得られている症例やHBVについては抑制されて肝炎が鎮静化している症例が増えています。

今後の経過観察をかかりつけ医にお願いする際に、KMNを利用し、かかりつけの先生の方でデータをアップしていただくと、その後の患者様の状態をこちらでも把握することができるので、かかりつけ医での経過観察のロスをなくし、患者様にとっても安心が担保されることが期待されます。



当コンテンツ・当院に関するアンケートにご協力ください

Q1. 今回のコンテンツを見て、さらなる情報について知りたいですか。**必須**

- 該当しそうな患者がいるので相談したいと思った。
- 今のところ該当患者はいないが、発見した場合は紹介を前向きに検討したい。
- 本トピックで実際の勉強会があったら参加してみたい。
- 相談や勉強会までは不要だが、コンテンツがあれば引き続き見たい。
- とくに興味はない。



宮本 健史(みやもと たけし)

副病院長

整形外科 診療科長

熊本大学大学院生命科学研究部 整形外科学 教授

【学会専門医・認定医】

日本整形外科学会整形外科指導医、整形外科専門医、脊椎脊髄病
医

日本リウマチ学会リウマチ指導医、リウマチ専門医

日本リハビリテーション医学会認定臨床医

日本骨粗鬆症学会骨粗鬆症専門医

お問い合わせ先



熊本大学病院 熊本大学病院事務部 医療サービス課 地域・がん医療連携担当

TEL:096-373-5734

FAX:096-373-5828

メールアドレス: iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ホームページ: <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>

[地域医療トップ](#) に戻る >

地域連携のご担当者様へ - 情報発信しませんか？

本サービスは、地域の中核となる病院とかかりつけ医の連携を目的として、病院が取り組んでいる医療の取り組みを記事としてお伝えしています。病院から地域のかかりつけ医の先生方への情報発信についてご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。